

徳島市立男子 鳴門渦潮女子 決勝下へ

弓道

（特設弓道場）

（静岡県小笠山総合運動公園アリ）

【男子】団体予選（20射）徳島市立13中（多喜3中、大下3中、伊東0中、笹田3中、吉野4中）

【女子】団体予選（20射）鳴門渦潮11中（中岡2中、倉持2中、神田3中、小西1中、岩根3中）

【決勝トーナメント進出】



【上】男子団体予選 決勝トーナメント進出を決めた徳島市立の（左から）多喜、大下、伊東、笹田、吉野
【下】女子団体予選 11中を決めた鳴門渦潮の（左から）中岡、倉持、神田、小西、岩根—いずれも静岡県小笠山総合運動公園アリーナ特設弓道場（山田旬撮影）



鳴門渦潮・岩根歌音主将（11中で決勝トーナメント進出を果たし）「目標の12中には届かなかった。決勝トーナメントでは14、15中を目指し、ベスト8入りしたい」

上級生が力バ—

○2年連続の決勝トーナメント進出を果たし

た男子の徳島市立。不調だった1年生のミスを2、3年生がカバーし、予選通過の最低ラインと位置付けていた13中をマークした。皆中でチームを引っ張った吉野主将は「気持ちを整えて射るという普段の練習が生きた」と振り返った。前日の個人戦で決勝に進んだ2年の大下は「会場の雰囲気は慣れていたが、落ち着いて弓を引くことができた」。1本目を外しても動揺せず、後の3本をきっちり決めた。決勝トーナメント初戦で敗れた昨年の悔しさを知る吉野主将は「一戦必勝でリベンジを果たしたい」と力を込めた。